https://language.sakura.ne.jp/kjlpt/index.html

文部科学省　日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）KJLPT

第１回公開シンポジウム

日本語教育の新時代を展望する―登録日本語教員制度を見据えて―

ごあいさつ

文部科学省　日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）KJLPT では、下記の通り、公開シンポジウムを開催することとなりました。日本語教師教育者、日本語教師、日本語教育ボランティア従事者、日本語教師志望者、日本語教育専攻学生・院生、また、日本語教育に関心を持つ地域の方々など、幅広い皆様のご参加をお待ちしています。

記

日時：2025 年 3 月 22 日（土）　09:30（開場）～17:00

会場：ヒルトンプラザウェスト８階会議室（大阪府大阪市北区梅田2丁目2－2）JR 大阪駅桜橋出口徒歩 2 分／メトロ西梅田駅 4B 出口直結／阪神大阪梅田駅西口徒歩１分

参加申込：要事前申し込み（参加費は無料）

申し込みリンク https://forms.gle/DYZS6nGiUYLeEhN69

照会先：神戸大学国際文化学研究科内 KJLPT 事務室
kjltpinfo@gmail.com

プログラム

第 1 部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

09:40-11:10 「域内大学の学生・院生による日本語教育の学びの成果発表会」
発表者 近畿圏の大学生・大学院生(26 組、37 名)

11:15-12:15「ようこそ、日本語教育の世界へ ―日本語学校の先生方による学生向けスペシャルトーク―」
司会 戸川朝子氏*(南大阪国際語学学校)
登壇者 内田さつき氏(コミュニカ学院)、岸田久美子氏(京都民際日本語学校)、玉置彩香氏(南大阪国際語学学校)、ティミルシナ・ウサ氏(エイム奈良国際アカデミー)、野原麻衣氏(京都民際日本語学校)、目黒裕将氏(エイム奈良国際アカデミー)

12:15-13:00 昼食休憩/情報交換会(※会場規定により、弁当の持ち込みはご遠慮下さい)

第 2 部 研究協議会

13:00-13:30 開会・拠点事業 2024 年度活動報告

13:30-14:10 文科省講演 「日本語教師養成・研修推進拠点への期待」
講師 今村聡子氏(日本語教育課長)・齊藤由人氏(実践研修第一係長)

14:20-15:20 「養成/実践研修機関申請を終えて―次期申請校へのエール―」
講師 永井邦明氏(京都民際日本語学校)、中岡樹里氏(京都精華大学)、藪崎淳子氏(追手門学院大学)

15:30-16:30 記念講演「「日本語教育の参照枠」の目指すもの再考」
講師: 真嶋潤子氏(JF 関西国際センター)

16:30-17:00 全体討議・外部評価委員講評・閉会
外部評価委員: 李在鎬氏(早稲田大学)・迫田久美子氏(広島大学/国立国語研究所)

文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）K-JLPT

第１回公開シンポジウム

日本語教育の新時代を展望する―登録日本語教員制度を見据えて―

プログラムガイドブック

第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

09:40-11:10 「域内大学の学生・院生による日本語教育の学びの成果発表会」
近畿地区の大学で日本語教育を学ぶ 26 組 37 名の大学生・大学院生が、「A：教員養成課程での学び」、「B：実習・留学・ボランティア体験等での学び」、「C：教材調査からの学び」、「D：学習者調査からの学び」という 4 つのテーマに関して平素の学びの成果をポスター発表します。ぜひ、ご観覧の上、ご助言やご質問をお願いいたします。

セッション１（0940～1010）

A 関野小夏（神戸女学院大学文学研究科 M1）「神戸女学院大学 日本語教員養成課程を経て」
【概要】 神戸女学院大学には、日本語教員養成課程があり、4 年間学びを積み重ねてきた。その成果に加え、現在関わっている日本語教育現場の経験についても発表したい。

B 寒川ちなつ・白﨑未桜（大阪大学外国語学部 4 年）「日本学生支援機構大阪日本語教育センターでの教育実習を経て」
【概要】 大学の授業の一環として参加した日本語教育実習での活動内容を報告し、実習中に得た学びや気づき、反省に関する発表を行う。

B 多鹿希輝・水口阿弥（武庫川女子大学文学部 3 年）「「ふでばこ」での居場所づくり～外国にルーツを持つ子ども達との交流を通して感じたこと～」
【概要】 外国にルーツを持つ子ども達の居場所づくりの中で見つけた、子ども達が抱える問題、ボランティアの葛藤などを話します。

C 野田美由紀（立命館大学言語教育情報研究科 M1）「日本語初級教科書における会話表現語彙の分析」
【概要】『みんなの日本語 初級Ⅰ』『みんなの日本語 初級Ⅱ』『できる日本語 初級 第 2 版』『できる日本語 初中級 第 2 版』の会話部分を取り上げ分析。

C 李楷玉（神戸大学国際文化学研究科 M1）「社会参加のための日本語教育への授業提案ー中上級学習者ブラッシュアップ日本語会話」を例として」

【概要】「日本語教育の参照枠」で指摘されている日本社会の一員としての扱い、社会参加の日本語教育を提唱する今は、会話力の育成はますます重要視されている。そこで、本研究は会話教科書「中上級学習者ブラッシュアップ日本語会話」を分析することを通じて、会話における教材改善と授業の注意点を提案することを目指している。

D 三和弘美（立命館大学言語教育情報研究科 M2）「日本語学習者による授業評価アンケート自由記述欄の活用ー事前話し合いの効果検証ー」
【概要】 日本語学校の授業評価アンケートにおいて、学習者の自由記述欄への積極的な回答を促すことを目的として、アンケート実施前のグループでの話し合いの効果を検証した。

D 廉沢奇（神戸大学国際文化学研究科 D1）「オノマトペの使用量は習熟度と関係しているか？ー学習者による発話と作文の分析を通してー」
【概要】 本研究は、日本語オノマトペ（どんどん、しっかりなど）について、学習者の使用実態を解明するため、話し言葉（発話）と書き言葉（作文）の 2 大区分で、延べ語数・異なり語数などの観点から、学習者と日本語母語話者間の差異を明らかにし、その原因を解釈した。

D 李彪（関西大学外国語教育学研究科 D1）「評価のモダリティにおける持続的文法学習の設計ー「イイ型複合形式」を中心にー」
【概要】 中上級学習者でも上手く使いこなせない「バイイ・タライイ・トイイ」などの評価のモダリティに着目し,「学習者に足りないものは何か」と「指導上に不備はないか」の 2 つの視点から分析して初級以降どんな内容を教えるべきかについて考える。

セッション 2（1010～1040）

A 藤田皓基（追手門学院大学国際教養学部国際日本学科 4 年）「追手門学院大学における 4 年間の学び～教職課程と日本語教師養成プログラムの履修を通して～」
【概要】 教職と日本語教育の2つを履修しながらこれまでに得た学びと経験、それらを通してこれからに活かしたいことを発表します。

A 友永彩弥音・中野遥・山中優汰（大阪大谷大学文学部 1 年）「超実戦！みんなで日本語教育～タイ・インドネシアのオンライン授業を通して～」
【概要】 日本語学習者に対して行ったオンライン授業を中心に、1 回生の日本語教育の学びについて発表する。

B Nguyen Hao Nam（大阪教育大学教育学研究科 M2）・河村麻友香・坂井美波・澤田涼太郎・橋本芽来（大阪教育大学教育学部 4 年）「ベトナムのホーチミン市で行った日本語教育研修ー教育実習とフィールドワークの一体型プログラムの報告ー」
【概要】 2024 年 3 月にベトナムのホーチミン市内にある技能実習生の送り出し機関 2 校、日本語学校 1 校、教員養成大学で行った日本語教育に関するフィールドワークと教育実習について報告する。

B 松本文音（大阪大学外国語学部3年）「ドイツ・デュッセルドルフ大学での日本語教育実習を経て」

【概要】大学の授業の一環として参加した海外日本語教育インターンでの教育実習の成果報告を中心に、デュッセルドルフでの日本語教育に関する活動報告します。

C 飯利藍・近藤さくら（関西大学外国語教育学研究科 M1）「日本語教師養成課程の学びで得た教科書分析における批判的視点」
【概要】 日本語教師養成課程での学びによって筆者らは教科書分析における批判的視点を得た。本ポスター発表の目的は、そのような批判的な視点から日本語教科書で取り上げられている会話例を分析することにより、母語話者/非母語話者の対立を超えた教育実践のあり方への第一歩を示すことである。

C 郭夢宇（神戸大学国際文化学研究科 M1）「中級日本語教科書『総合日語』における非外来語のカタカナ表記の実態」
【概要】 本研究では、中級日本語教科書『総合日語』における非外来語のカタカナ表記を分析した。その結果、使用頻度は限定的で、特に会話文やエッセイに多く見られるが、和語や混種語のカタカナの説明や練習問題が不足している点が明らかとなった。これに基づき、教材改善案を提案した。

D 黄悦斉（華東師範大学大学院／神戸大学国際文化学研究科 M2）「外国人学習者に語種をまたぐ類義語の差をどう説明するか？ー「スタートする」「始ま(/め)る」「開始する」を例としてー」
【概要】 本発表では語種の異なる 3 つの類義語を取り上げ、「筑波ウェブコーパス」を用いてそれぞれの使用頻度や共起要素を調査した。外国人日本語学習者がこれらの類義語の違いを理解する際、これら 2 つの視点を辞書でどのように説明すればより分かりやすくなるかを検討する。

D 郭テイテイ（関西大学外国語教育学研究科 D2） 「中国語を母語とする日本語学習者における言いさし表現についての意識調査」
【概要】 本研究では、中国語を母語とする日本語学習者における言いさし表現についての意識を調査する。調査では、アンケートの質問を作成し、母語話者と学習者という 2 つの協力者グループに言いさし表現の文と言い切り表現の文の違いについて、アンケートで印象を尋ねる。

D 牟虹妮（神戸大学国際文化学研究科M1）「中国語母語の日本語学習者は、同格を表す「という」をどう使っているか？―日本語母語話者との違いを探る―」
【概要】 本研究は、中国語を母語とする日本語学習者（CLJ）による同格を表す「という」の使用実態を明らかにすることを目的とする。日本語母語話者（JNS）との比較を通じて、CLJ の特徴や問題点を考察する。同格「という」の学習者における習得と使用の実態に焦点を当てる。

セッション 3（1040～1110）

A 張偉祺（関西大学外国語教育学研究科 D1）「日本語教員養成課程での学びを活かす：地域における在住外国人支援の実践」
【概要】 日本語教員養成課程で学んだ知識と経験は、地域で在住外国人を支援する実践においても重要な役割を果たしていると痛感しています。本発表では、私が日本語教員養成課程で

の学びや気づきが、どのように在住外国人の生活支援や日本語習得支援につながっているかを具体的な事例を挙げながら紹介します。また、地域におけるコミュニティ構築に向けた課題と可能性についても考察します。

B 西村映美（神戸女学院大学文学研究科 M2）「台湾留学記 2023-2024 年」
【概要】 2023 年 9 月から 2024 年 8 月までの 1 年間、語学留学を行い、現地の大学の日本語授業に参加した。本ポスター発表では留学を経て得た経験について発表する。

B 片桐 柚希（立命館大学文学部 4 年）「実践コミュニティとしての「日本語教育勉強会」ーアクション・リサーチを用いた実践研究ー」
【概要】 本学を舞台に、「実践コミュニティ」の概念をこれから日本語教師を目指す大学生の間で取り入れることの可能性を検討した。M-GTA による分析の結果、「日本語教育勉強会」への参加とは、実践コミュニティに内在する協働のメカニズムに支えられた、学生の学びと成長そのものであることが明らかになった。

B 東野陽介・山田晴摩・岡野莉子（追手門学院大学文学部 3 年）「追手門学院大学の日本語教育実習」
【概要】 2024 年度の日本語教育実習について、海外と国内それぞれの特徴と学びについて報告する

C 魏婧云（神戸大学国際文化学研究科 M1）「中国の日本語教科書における「A っ B り」型オノマトペの分析―日本の日本語教科書との比較―」
【概要】 本研究では、中国と日本の日本語教科書における「A っ B り」型オノマトペの扱いを 3 つの観点（出現量・品詞の特徴・教科書内のセクション）から分析した。その結果、各巻だけでなく、教科書間でも扱い方に差異があることが明らかになった。これらの知見は、教育現場における日本語オノマトペ指導に対する一助となるものと考えられる。

C 楊 倩（神戸大学国際文化学研究科 M1）「日本語教科書『いろどり』における日本文化要素の扱われ方についての考察」
【概要】 本研究は、久保田（2008）の 4D アプローチを用いて、日本語教科書『いろどり』における日本文化要素の扱われ方を分析する。文化の記述がどの程度事実に基づき、文化の多様性や変化を反映しているか、また教材が学習者にどのような日本の価値観やイメージを伝えているかを考察する。

D 鈴木きらり（大阪樟蔭女子大学学芸学部 4 年）「介護現場における「やさしい日本語」-外国人介護士に着目して-」
【概要】「やさしい日本語」は外国人にとって一般的には必要とされるが、介護現場で働いてる外国人にとっての「やさしい日本語」はどのようなものなのかということについてインタビューを元に考察する。

D 陳迪（神戸大学国際文化学研究科 D3）「中国語母語の日本語学習者は、漢語動名詞をどのように使っているか？ー作文と発話における使用実態の分析ー」
【概要】 本調査では、中国語を母語とする日本語学習者が漢語動名詞を正確かつ自然に使用できているかを、誤用率や使用頻度の分析に加え、他言語母語話者や日本語母語話者との比

較、習熟度別の分析を通じて明らかにした。

D ワーナー・ジェフリー（甲南大学人文科学研究科 M2）「日本語の高低アクセントの教育方法 ― 英語母語話者を対象に Praat を用いて ―」
【概要】 英語母語話者による日本語の高低アクセントの習得状況を明らかにし、音声可視化アプリ Praat を使用した教育方法を提案する。

第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム

11:15-12:15「ようこそ、日本語教育の世界へ ―日本語学校の先生方による学生向けスペシャルトーク―」

内田さつき氏（コミュニカ学院校長）

略歴： 2001 年よりコミュニカ学院勤務。教員養成や『読む力』シリーズの出版に関わる。文部科学省委託主任教員研修実施委員、日本語教育学会支部活動委員、ビジネス日本語教育研究会幹事。外部の多様な機関と連携しながら、学生が社会に主体的に発信できる力を養うための授業実践を行っている。

岸田久美子氏（京都民際日本語学校教務部長）

略歴： 2011 年 4 月よりタイの語学学校に専任講師として勤務。帰国後、2012 年 4 月より非常勤講師として京都民際日本語学校に勤務。2013 年 10 月同校の専任講師となる。留学生の授業を担当しながら、同校日本語教師養成講座の授業も担当。2020 年 10 月より教務主任を務め、2023 年 10 月より現職。

玉置彩香氏（南大阪国際語学学校講師）

略歴：台湾の日本語学校で 1 年間日本語講師を勤めた後、大阪の日本語学校で約 2 年間非常勤講師として勤務。2023 年 3 月より現職。

ティミルシナ・ウサ氏（エイム奈良国際アカデミー講師）

略歴：ネパール出身。天理大学日本研究コース卒業。日本語学校事務職等を経て、2024 年より現職。

戸川朝子氏（南大阪国際語学学校校長）【司会進行】

略歴：2001 年よりベトナムにて日本語教師を始める。帰国後、これまで複数の日本語学校に勤務し、主任教員、校長職などに携わる。途中、小学校の日本語指導員なども経験し、2022 年より大学院に通いながら現職に就く。文部科学省委託主任教員研修実施委員。日本語教育に関わる人みんなの自己実現を目指して活動中。

野原麻衣氏（京都民際日本語学校講師）

略歴：京都外国語大学外国語学部日本語学科卒業。学生時代は京都市国際交流会館での日本語ボランティアや Kyo Tomorrow Academy の留学生支援に関わる。新卒社員として令和5年 4 月京都民際日本語学校に入社。現在は 2 年生の担任として進路支援、中級・上級の授業を担当。令和6年度留学生に対する日本語教師初任研修修了。

目黒裕将氏（エイム奈良国際アカデミー副主任教員）

略歴：2008 年から中国広東省の語学学校、大学、日本人補習校等で勤務。2020 年に帰国し、日本語学校に非常勤講師として勤務し、2022 年 3 月よりエイム奈良国際アカデミーに専任講師として勤務。

第２部 研究協議会

13:10-13:30　近畿拠点 2024 年度活動報告

近畿拠点に設置された4部会（関連機関の連携強化を目指す「連携部会」、教員向け研修の在り方を考える「研修部会」、地域日本語教師養成の実態を探る「調査部会」、地域日本語教育支援の在り方を考える「支援部会」）における1年間の活動を報告します。各5分×4部会。

13:30-14:10 文科省講演 「日本語教師養成・研修推進拠点への期待」

文部科学省より講師をお招きし、文部科学省　日本語教師養成・研修推進拠点整備事業の趣旨や、拠点事業への期待についてご講話をいただきます。フロアからのご質問も歓迎いたします。

今村聡子氏（日本語教育課長）

【講師略歴】平成7年文部省入省。初等中等教育、高等教育、国際関係、芸術文化等の分野で幅広く業務にあたるとともに、省外では千葉県白井市教育長として学校統廃合、東京大学では指定国立大学法人の申請、東京医科歯科大学では東京工業大学との統合協議等の課題に取組んだ。令和5年9月より文化庁国語課長に着任し、日本語教育機関認定法の施行準備に取組み、令和6年4月より総合教育政策局に新しく発足した日本語教育課長に着任。

齊藤由人氏（実践研修第一係長）

【講師略歴】平成24年に秋田県庁へ入庁。スポーツ振興や児童福祉分野等、幅広い分野の業務に携わった後、令和2年4月から令和4年3月までは企画振興部国際課に配属され、多文化共生施策や日本語教育施策を担当し、コロナ禍における在留外国人への支援や秋田県日本語教育の推進に関する基本的方針の策定等に取組んだ。その後、デジタル庁への出向を経て、令和6年3月に秋田県庁を退職。令和6年4月より文部科学省へ入省し、日本語教育課に配属され、現在に至る。

14:20-15:20　「養成／実践研修機関申請を終えて～次期申請校へのエール～」

2024 年 11 月に、登録日本語教員養成機関および実践研修機関の登録結果（第1期）が発表されました。今回は、第 1 期に登録を果たした拠点メンバー校 3 校（大学 2 校・日本語学校 1 校）よりご発表をお願いし、登録にかかるご苦労や、カリキュラムの工夫などについてお話を伺います。

永井邦明氏「京都民際日本語学校における日本語今日養成課程の養成機関登録」

【概要】 平成 29 年文化庁届出申請時の経験を参考に、文科省の意図するところを推し量りながら今回の登録申請を行いました。今後の文科省の登録審査に影響を与えない範囲でその経験をお話したいと思います。

【講師略歴】 京都民際日本語学校西大路キャンパス校長であり、日本語教師養成講座主任。平成 16 年 9 月より非常勤講師として同校に勤務。平成 17 年 4 月、同校の専任講師となる。平成 21 年 4 月からは日本語教師養成講座主任、短期日本語課程の主任講師を務め、令和 6 年 4 月より現職。

中岡樹里氏 「京都精華大学における日本語教員養成課程の新規立ち上げと養成機関登録」

【概要】京都精華大学国際文化学部では、25 年度から始まるカリキュラムにおいて、「登録日本語教員課程」を設置することとなりました。養成課程の立ち上げと同時期に登録日本語教員養成機関の登録申請の開始が決まり、24 年度の第 1 回に申請を行い、登録を受けました。養成課程のカリキュラム作成の過程やその特徴、申請までの取り組みなどについてお話しします。

【講師略歴】 京都精華大学国際文化学部講師。タイの大学で日本語講師を勤めた後、大阪・兵庫の様々な大学で非常勤講師として留学生を対象とした日本語教育に従事。関西学院大学日本語教育センター日本語常勤講師を経て、2020 年 10 月より現職。

藪崎淳子氏「追手門学院大学における日本語教員養成課程の養成機関登録」

【概要】登録日本語教員養成機関・実践研修機関の登録申請のために、苦労したこと・考えたことについてお話します。

【講師略歴】追手門学院大学文学部准教授。東京外国語大学大学院修士課程修了後、韓国の建陽大学校、培花女子大学で講師として日本語教育に従事。大阪市立大学大学院博士課程進学のため、帰国。甲南女子大学特任講師を経て、2019 年より現職。専門は日本語学。追手門学院大学において、日本語教員養成機関・実践研修機関の本務等教授者（主任者）を務める。

15:30-16:30　記念講演「「日本語教育の参照枠」の目指すもの再考」

登録日本語教員制度が始まる中、新しい日本語教育のフレームワークとなる「日本語教育の参照枠」への関心が高まっています。参照枠はどのような背景で導入され、何を目指しているのでしょうか？ 参照枠の導入により、日々の日本語指導はどう変わっていくのでしょうか。CEFR や参照枠のご研究で著名な真嶋潤子先生のご講演を通して共に学び合いたいと思います。

講師： 真嶋潤子氏（大阪大学名誉教授／独立行政法人国際交流基金（JF）関西国際センター所長）

【概要】2024 年度は歴史に残る日本語教育施策が発動しましたが、本講演ではこれまでの経緯と目的を踏まえてから、「日本語教育の参照枠」についてお話しします。その背景にある欧州評議会の理念と、CEFR と CEFR-CV の特徴、それが日本で採用された意味や意義を再考するとともに、従来の日本語教育との異同を考えます。また学習者の目的によって「留学」「就労」「生活」分野に分ける意味と、その目指すところについても考えます。

【講師略歴】ジョージア大学大学院言語教育学科外国語教育学専攻（Ed.D. 教育学博士）。大阪外国語大学助教授、大阪大学大学院言語文化研究科教授等を経て、大阪大学名誉教授。現在、国際交流基金関西国際センター所長。専門は日本語教育学、外国語教育学、言語教育政策。主な出版に、『日本と諸外国の言語教育における Can-Do 評価― ヨーロッパ言語共通参照枠（ CEFR ）の適用―』（2010、朝日出版社、分担執筆）、『日本語学入門：第二言語習得研究』（2015、明治書院、分担執筆）、『ことばを教える・ことばを学ぶ―複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）と言語教育―』（2018、行路社、分担執筆）、『母語をなくさない日本語教育は可能か一定住二世児の二言語能力』（2019、大阪大学出版会、編著）、『技能実習生と日本語教育』（2021、大阪大学出版会、編著）、『CEFR の理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト』（西山教行、大木充編）（2021、くろしお出版、分担執筆）、「CEFR を参照した「日本語教育の参照枠」を巡って」『AJALT』47 号（2024、（公）国際日本語普及協会）、『CEFR-CV の「仲介」と複言語・複文化能力』（大木充、西山教行編）（2024、凡人社、分担執筆）、『外国人受け入れへの日本語教育の新しい取り組み』（田尻英三編著）（2025（印刷中）、ひつじ書房、分担執筆）など。